

科目名(Subject)	会計学特講 (Topics in Accounting)		
単位数(Credits)	2 単位	開講時期	後期
担当教員名 (Name)	坂柳 明 (Akira SAKAYANAGI)	研究室番号 (Office)	423
Office Hours	金曜 10:30~12:00		
1. 授業目的・方法(Course objective and method)			
<p>授業目的：この授業では、意味のある財務会計分野の研究論文、及び意味のある監査論分野の研究論文を執筆するに当たって、研究上の論点を見つけることを目的とする。その研究上の論点として、この授業では、以下の3. 授業内容(Course contents)で示すような、財務会計分野の研究、及び監査論分野の研究を行うに当たっては必須の論点を紹介する。</p> <p>授業の方法：この授業は、使用する文献の内容について参加者に問題提起を行ってもらい、その問題提起に担当教員がコメントする、という方法で行われる。</p>			
2. 達成目標(Course Goals)			
<p>[財務会計分野]</p> <p>この授業を履修することによって、多学問の知見を借りなくとも、財務会計分野の研究を行うに当たっての核になり得るところの、会計基準及び関連実務指針に従う形で行われている、あるいは現時点では気付かれていない可能性がある、「収益の認識規準が、伝統的な実現基準と比べて、契約を結ぶ相手方と自身がどのような関係にあるか、あるいはその契約の内容はどのようなものか」、という点が、特に「ある事業体が別の事業体の行動をどこまで制約できるか」という問題との関係で、どのように見直され得るか、を探る研究上の手がかりが得られる。</p>			
<p>[監査論分野]</p> <p>この授業を履修することによって、多学問の知見を借りなくとも、監査論分野の研究を行うに当たっての核になり得るところの、監査制度の設計に当たって必要になる、「ある状況に直面した監査人の対応は1つになるのか、それとも複数あり得るのか」を探る研究上の手がかりが得られる。</p>			
3. 授業内容(Course contents)			
<p>[財務会計分野]</p> <p>第1回～第4回：「本支店会計」において、(1)：支店の財務諸表と本店の財務諸表を合算することと、(2)：支店と本店が事業体として独立していることが結びつくのか、あるいは、結びつかないのか、という問題について、先行研究の内容を整理した上で（第1回～第2回の事前学修と事後学修の課題とします）、この問題を考察します（第3回～第4回の事前学修と事後学修の課題とします）。</p> <p>第5回～第9回：「連結会計」において、(1)：親会社が子会社の意思決定機関を「支配」しているかどうかと、親会社が子会社の事業の裁量を奪うことが、どのように関係しているか、あるいは関係していないのか、という問題について、先行研究の内容を整理した上で（第5回～第7回の事前学修と事後学修の課題とします）、この問題を考察します（第8回～第9回の事前学修と事後学修の課題とします）。</p>			
<p>[監査論分野]</p>			

第10～15週：『監査事務所検査結果事例集』を題材にして、監査人が重要な虚偽表示を看過する原因は、特に「重要な虚偽表示リスクの識別及び評価」と「評価した重要な虚偽表示リスクに対応する監査人の手続」についての監査基準及び関連実務指針において、その監査人の裁量に委ねられる部分が多いことにあるのか、という問題について、該当する『監査事務所検査結果事例集』の内容を整理した上で（第10回～第12回の事前学修と事後学修の課題とします）、この問題を考察します（第13回～第15回の事前学修と事後学修の課題とします）。

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

3. 授業内容(Course contents)を参照。

5. 使用教材(Teaching materials)

第1回～第4回、第5回～第9回、第10回～第15回ごとに、それぞれ内外の文献を使用する。これらの文献は、授業前に予め読んできてもらい、授業当日は、担当教員による補足説明の後、参加者から提起された問題について議論する。

6. 成績評価の方法(Grading)

出席率：10%

授業への参加度（討論、事前課題・事後課題の提出）：85%

未知の研究上の論点の発掘：5%

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

秀（100～90）：授業内容をほぼ完璧に理解し、研究能力があると認められる。

優（89～80）：授業内容は十分に理解しているが、研究論文がある、と言える水準に達するためには、もう少し努力が必要である。

良（79～70）：理解が不十分な点はあるが、授業内容をおおよそ理解している。

可（69～60）：理解が不十分な点は目立つが、授業内容の基本的な理解はある。

不可（59～0）：授業内容を理解している、と言える水準に達していない。

8. 履修上の注意事項(Remarks)

この授業を履修するに当たっては、分析力、洞察力といった、「考える力」が求められます。